

坂東 美瑞穂  
BANDO Mizuho



願いの通り道

インスタレーション、ミクストメディア

## 願いの通り道

神社や寺、教会等、宗教は異なっても神聖な場所に、人はそれぞれ“願い”を抱いて訪れる。それらの場所は人々の願いや祈りによって作られたり、大切にされたりして、今も遺され続けている。そこへ行くと、美しい風景を目にしたり、多くの命のエネルギーを感じたりする事がある。それは、そこに宿る者の力のみではなく、その“願い”の力によって生じるものではないだろうか。私は“願い”の可視化を、作品を通じて試みた。

私は展示室に絵画の世界の延長線を作る事を目指している。三枚の絵画には、それぞれに神域、またはそこに訪れるまでの道のりを描いた。線描の人々は、過去にそれぞれの場所を訪れた人々の“願い”を表している。“願い”は肉体とは違い、目に見えず、内容もそれを抱く者のみしか知らない。描かれた“願い”は、過去にその場所に訪れた人のものとして描いている為、現在そこに存在するものではない。実態は無いが人に宿り、過去に存在するものとして、透明な素材にも描き、展示室に配置した。展示室で作品の前に立つ者は“願い”に溢れた場所を現在訪れている。そして、展示室に“願い”を配置する事により、過去の時間と現在の時間を結びつけた。また、展示空間に賽銭箱を置き、そこから賽銭を投げる音や手を叩く音、その周辺を歩く者の音を流す事で、その場所を訪れた人々の痕跡を展示室にも残した。

近年、疫病や争い、災害等ネガティブなニュースが多く、人々が何かに願う事が更に増える世になった。寺や神社もその対象になるだろう。しかし、とある神域を描いて展示した時、「自分が住んでいる地域なのにこんな神域があるとは知らなかった」と言われた事もあった。忘れられつつある場所があるのも現状である。そのような神域であっても、かつて人々が“願い”を託したと伝えられる作品を、自分の表現を通し、これからも制作していきたい。